

日光の実情：宗教と地理

日光の名前の由来

勝道上人（735～817）が日光に来て、南台山で宗教的な修行をしたとされている。当時は、インドの南の島にある観音様の故郷であるポタラカ山の日本語発音で「二荒山」と呼ばれていた。

漢字の「二荒」は「にこう」とも発音することができ、有名な僧侶である空海（774～835）がこの変化を示唆したとされている。時が経つにつれ、「にこう」は「にっこう」となり、「日光」と書かれるようになった。この新しい文字は天台仏教の最も尊重された神である大日如来を指していると考えられる。この地は「日光」と呼ばれるようになり、やがて男体山と呼ばれるようになった。

霊山

日光の山々は、仏教と神道の両方の神の化身と考えられている。

太郎山（2,368m）

仏教徒：馬頭観音

神道：阿遲須枳高日子命

女峰山（2,464m）

仏教徒：阿弥陀如来

神道：田心姫命

男体山（2,484m）

仏教徒：千住観音

神道：大汝命

滝

日光地方には 250 以上の滝があり、その多くは滝の下に立つ禊の修行に使われている。

湖

奥日光を含む日光地域には、48 の湖があるが、それ以外にも多くの小さな水域がある。48 という数字は仏教における縁起の良い数字で、法蔵菩薩が成仏して阿弥陀如来となる前に立てた 48 願を表している。